

秋田市公共交通政策ビジョン 比較表

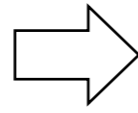
第2次秋田市公共交通政策ビジョン(現行)

平成28年度～令和2年度(5年間)

第3次秋田市公共交通政策ビジョン(案)

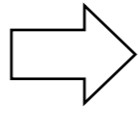
令和3年度～令和7年度(5年間)

関係者の役割分担	
市民・地元	積極的に関与し、維持に協力
交通事業者	中心部のバス路線の維持
行政	郊外部廃止路線沿線での移手段の確保



関係者の役割分担		説明
市民・地元	積極的な関与と利用	公共交通としてタクシ-を位置づけるとともに、中心部・郊外部といった地域毎の役割分担をやめ、車両の特性に応じたサービスの提供を行うこととする。
交通事業者	タクシ-も含め、車両特性に応じたサービスの提供	
行政	地域住民の足の確保に積極的に関与	

基本的な方針
まちづくりと一体となった、将来にわたり持続可能な公共交通網の実現



基本的な方針	説明
まちの変化に柔軟に対応し、誰もが自由に移動できる、将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現	居住状況等に柔軟に対応し、日常生活や社会生活を営む上で必要不可欠な移動を円滑に行うことができる交通手段の確保と維持を図る。

目標	多核集約型の都市構造を形成する公共交通網の整備
施策パッケージ	(1)バス路線再編【内容見直し】
	(2)鉄道の利便性向上【内容見直し】
	(3)乗継拠点の整備【内容拡充】



目標	多核集約型の都市構造を形成する公共交通ネットワークの整備	説明
施策パッケージと施策	(1)バス路線再編【内容見直し】	鉄道を骨格、路線バスを大動脈とし、タクシー等小型車両による面的な移手段(毛細血管)を位置づけ、乗換を前提とした路線網の構築に向けた検討を進める。コンパクトシティの形成や、高齢社会への対応のため、効果的・効率的な運行を図り、将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現を図る。
	・乗換を前提とした公共交通全体の見直し	
	・中心市街地循環バスの利便性向上	
	(2)鉄道の利便性向上【内容見直し】	
	・泉外旭川駅(新駅)の利活用	
	・鉄道駅のバリアフリー化	
	(3)乗換ポイントの環境整備【内容拡充】	
	・快適に過ごせる乗換空間の整備	

目標	利便性向上、バス路線運営適正化に向けた取組みの推進
施策パッケージ	(1)バス走行環境の向上【交通戦略へ】
	(2)バス運行情報提供の充実【内容拡充】
	(3)バス利用環境の改善【継続】



目標	利便性向上、バス路線運営適正化に向けた取組の推進	説明
施策パッケージと施策	(1)バス運行情報提供の充実【内容拡充】	ICTの活用などにより、バスの位置情報など運行情報の提供やキャッシュレス決済の導入など、バスの利便性向上に向けた取組を行う。また、公共交通の利用に関する情報提供として、バスを利用したまち歩き等、新たなまちの魅力や観光施設に関する情報を提供するとともに、公共交通による移動時間の有効活用を提案することで、新たなライフスタイルの実現を図る。
	・より使いやすいバスマップの検討	
	・ICTを活用した運行情報等の提供	
	(2)バス利用環境の改善【継続】	
	・誰もが利用しやすい車両の導入やバス停の安全確保	
	(3)利用しやすいバス運賃の検討【新規】	
	・ICカード導入を踏まえたわかりやすい料金制度等の導入検討	
	・乗換時の運賃の検討	
	(4)公共交通利用の促進【新規】	
	・バスを使ったまち歩きなどの情報提供	

目標	持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進
施策パッケージ	(1)マイタウン・バスの持続的な運営【継続】
	(2)必要に応じた代替交通(マイタウン・バス)の導入【見直し】
	(3)新たな代替交通の検討【内容拡充】



目標	持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進	説明
施策パッケージと施策	(1)マイタウン・バスの持続的な運営【継続】	マイタウン・バスについて、タクシー等小型車両の活用を含む効率的な運行形態を検討し、郊外部における持続可能な移手段の確保と利便性向上を図る。また、公共交通空白地域なども含め、貨物車両など、地域の輸送資源の総動員を図り、将来にわたり持続可能な公共交通の確保に向けた検討を行う。また、独占禁止法特例法に基づく共同経営の検討やICT等の活用による効率的な運行方法の検討を進める。
	・マイタウン・バスの利便性向上の検討	
	・郊外部における持続的な移手段の確保	
	(2)新たな交通手段の検討【内容拡充】	
	・タクシー等を活用した、新たな生活交通の導入検討	
	・貨客混載等の活用検討	
	・交通事業者等による共同経営の検討	
	・ICT・ビッグデータの活用による効率的な運行の検討	